レッスン：PYR NO.6

テーマ：黙想、創造および現れ

PYR NO.6 KE03/M10

私の兄弟。姉妹達、

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性に包まれています。

　レッスンのなかで、絶対存在はそれ自身のなかで継続的に黙想していると述べました。現在のパーソナリティーは、この活動は現在のパーソナリティーの中であると考えます。

　絶対存在は絶えず黙想し、このディバインの黙想の結果として、その黙想が何であれ活動が始まります。そしてこの活動の結果として創造界と現れがあります。質問は何が最初にスタートするか、ということです。

　最初に「モナドセルフ絶対存在」が現れます。さもないとそれ以外の何が創造され、現わされるでしょうか？ですからそれ自身の中における絶対存在の現れとしての「汎宇宙的キリストロゴス」があります。

 上向きの大きな一つの三角形があり、またそれと底辺を共有する下向きの三角形があります。そして今いわゆる創造界と呼ばれている中での絶対存在の現れがあります。

　なぜ創造界なのでしょうか？なぜなら、この「現れ」は絶対存在のアウタルキー（＊自足状態）のなかで起き、そして現れのために、そしてまた諸宇宙を築くためにマインドの様々なバイブレーションを使用します。

　さて、レッスンのなかで説明したように、この「絶対存在の神の現れ」の他に、創造界の諸世界のなかには「スピリットモナドセルフ」があります。人間のイデアと聖霊的イデアがあります。勿論、「スピリットセルフモナド」は創造界の諸世界ではそれ自身を完全には現わしません、現わすのはそれ自身の微細な部分だけです。

　人間のイデアを通じて、「魂のセルフエピグノシス」としてのこの微細なスパークがあります。そして聖霊的イデアを通じて様々なアークエンジェルのオーダーがあり、各オーダーのなかには無数のアークエンジェルがいます。勿論、現れるのは「スピリットセルフ」からの微細なスパークです。

　さて、これらの現れ、魂とアークエンジェルはどのようにして現れるのでしょうか？前に説明したように、これらの現れはマインドのバイブレーションを使います；そしてその結果として、その現れはフォームを持つ必要があり、そのフォームはLifeそれ自体、絶対存在によって与えられます。そして今、存在の諸世界、または創造界のなかで「イエスキリストロゴス」としてのフォームを持つ絶対存在があります。そしてその現れが天上人なのです。

　天上人は現れであり、それは人間のイデアおよび聖霊的イデアの両方を通じた現れのためにイデアフォームの元型を提供します。ですから、何であれ創造界で現れるものにはこのフォームがあります。なぜなら全ての現れはマインドのバイブレーションを使うからです。そのバイブレーション動が精妙であれ粗雑であろうとも。

ですから、絶対存在は汎宇宙的キリストロゴスとして始まり、この現れが創造界のなかで現れる時、イエスキリストロゴス絶対存在となるのです。それは汎宇宙的キリストロゴスとまったく同じです。

　生命の木、それは創造界の元型ですが、それを見ると汎宇宙的キリストロゴスの三角形の主な部分は一つの長方形の中にあり、その長方形とは創造界と現れを準備するステートを象徴する長方形です。そしてその三角形の一部だけが創造界の中に入ります。しかし、全体は創造界のなかではその頂点によって示されています。それは実際、下向きの小さな三角形を活性化します。そして勿論その三角形とは天上人です。

Page2

 **それゆえに人間はいわゆる最初の磔に到達することによって自己実現に到達しますが、それはそのパーソナリティーが現在のパーソナリティーの大きな三角形をマスターし、自動的にその現在のパーソナリティーはまた主、キリスト意識のステートに到達するのです。そして六芒星が形成されます。**

　それが六芒星が象徴していることです。現在のパーソナリティーがそのステートに上昇し、何であれ主、Lifeからのものを現わします。主というとき、それはLifeそれ自身を意味します。ロゴス、イエスキリストロゴスと言う時、それはLifeの海を述べています。

　そして現在のパーソナリティーまたはセルフエピグノシスとしての私たちは、その海からの一滴なのです。しかし、主は海です；主は同時に全ての一滴でもあるのです。それ故に私たちは、主は創造界における全ての人間を生かす光である、と言うのです。しかし、存在し、実在する全てはこのLifeの海によって生かされているのです。

　実際、死んでいると見なされるものは何もありません。どれほど小さくても全ては生きているのです。なぜなら、それはLifeの海によって活性化され、生かされているからです。

　イエスキリストロゴスとは何かがはっきり理解できたでしょうか？それは歴史上のパーソナリティーではありません。ロゴスとは全体としてのLifeそれ自身です。それは絶対存在のワンネス、ワンネスの現れです。そして勿論ワンネスは多様性、多重性です。

Q：私は言葉としてはキリストロゴスを理解できます。しかし同時に、あなたがイエスキリストロゴスと言う時、イエスという言葉自体は何かを意味するのですか？

K：イエスはパーソナリティーを意味します。そのパーソナリティーは実際、キリストロゴスです。しかし、人間があるレベルの気づきに到達した時に人間を導く、諸宇宙のなかでそれ自身を現わしているパーソナリティーがいます。歴史上で何が生じたとしても、この地球上でこれからも終わりなき現れの動きのなかで、永遠に生じ続けることでしょう。いいですか、その当時地球上で何が生じたとしても、それは同時に無数の他の惑星上でも生じていたのです。

　創造界は小さなものではありません。無数の銀河がありますが、それすらもLifeに比べたらそれは「小さなもの」です。あるいはモナドセルフつまりスピリットセルフ、あるいはさらには魂のセルフエピグノシスとしてのモナドセルフでさえも。Lifeは宇宙全体、創造界全体をその中に抱いており、それより大きなものを含むことができるのです。人間の頭脳でそれを認識するのは簡単なことではありません。

Q：私たちはいつもエレメンタルを創造していますが、戦争がある間、ある人々は戦争に反対して平和のエレメンタルを創造しています。もし大多数の人々が戦争に反対しているのに、なぜ戦争が起きるのでしょうか？

K：なぜなら、戦争を望んでいる人々もいるからです。それは人数の問題ではありません。戦争を生み出す上で重要なのは原因・結果の法則です。もし原因・結果の法則が許すなら、それが生じ、人間はそれを体験しなければならないのです。結局、私たちは二元性の世界、つまり体験の世界に住んでいます。勿論、だからといって痛みをもたらすものを避けようと努力すべきではない、ということではありません。

　過去に、多大な破壊をもたらしたパーソナリティーがいましたが、そうすることが許されたのは偶然ではありません。それらの人々は肉体を去った後、不可視のヘルパーの世話のもとで「特別な場所」に連れて行かれます。もちろんまず最初は、非常に長い間、そのような人間たちは眠った状態に留まるでしょう。

Q：しかし、彼らのマインドはどうなのですか？そのための聖なる慈悲はあるのでしょうか？原因結果のアンバランスに対するものとして？

K：なぜなら、彼らがそれを創造したのであるから、それは原因結果の法則によって許されたのです。彼らの行為の結果として経験が生じる時は、彼らはいずれにしてもそれらの経験を経なければならないのです。

Q：それではそれらすべてを引き起こした人々は咎められないのですか？

Page3

　K：勿論、彼らはそのような行為に対する結果を背負うことになります。しかし、同時に彼らの行為の犠牲になった人々もまた、何であれ以前に行った結果としてそれを経験しているのです。それもまた原因結果の法則によるのです。おそらく、なぜ罪もない人々がそのような苦しみを経験しなければならないのかと思うかもしれませんが、今はそうかもしれないが過去生でどのような行為をしたかはわからないのです。

　亡くなった人々は罰として亡くなったと見なすべきではありません。もしあるとすれば、罰せられるのは残された人々です。なぜなら、亡くなった人々は誰をも失わないからです。彼らは自分自身の環境を創造し、愛する人達をも創造し、自分たちの天国を創造するからです。ですから彼らに対して働く法則は罰としてのものではありません。

　しかし、私たちはまた、法則が命じたことを変えることもできるのです。次の瞬間に生じることは、その直前の結果です。しかし、その瞬間が来た時、その瞬間に私たちはその次の瞬間に生じることを変えることができるのです。それが生じることを法則が許すと言う時、それはそれが生じるのを防ぐ何かをその前に行わなかったからです。理解できますか？物事を変えるのは時には、そう簡単ではありませんが。

　何をすべきかを知るためには適切な努力が必要です。常に努力はすべきです。もし何かが起きるのが明らかであり、それを避けるために必要なことを行わなければ、それは勿論起きるでしょう。しかし、適切なアプローチを取れば、それを変えることはできます。私たちの内側にはそれを変える能力があります。勿論、多くのスキルと多くの忍耐が求められますが。

Q：努力は生それ自体によってエネルギーが与えられると言いました。しかし、銃また破壊的なものが生それ自体によってエネルギーを与えられるということを想像するのは私にとって困難です。

K：もし全ては主、つまり神のなかにあると考えれば。もし否定的・肯定的という二極性を持たなければ、私達はそれら全ての神の黙想のための仕事を現わすことはできないでしょう。

　神の黙想は実際、ワンネスの多様性、多重性のなかでモナドセルフが自己実現を現わすためのものなのです。モナドセルフが他の全てのモナドセルフの「私」とは異なった何かとして、「私は私である」と言うことができるためのものです。それが神の黙想に関することです。

　創造界が何であれ、この創造界における現れが何であれ、実際それは神の黙想の活動以外の何ものでもありません。私たちはこの活動における粒子なのです。しかし、その活動は黙想する方の全てではありません。

　もし私たちが限界ある現れのなかに入らなければ、他との分離を認識することはできないでしょう。もし仮に私たちが「あなたは誰ですか？」と問われれば、私は「私は神のスピリットセルフではなく、私は神です」と答えることでしょう。あなたが例えばミカエルのようなアークエンジェルに「あなたは誰ですか？」と尋ねるなら、答えは複数のミカエルの一つではなく、「私はミカエルです」と答えることでしょう。なぜなら、彼は彼のモナドセルフをミカエル全体と切り離すことができないからです。なぜなら、彼の現れは他のミカエルとまったく違っていないからです。つまりそこには個別性を生み出すための他とは異なった経験がないからです。

　私達は制限ある現れのなかに入り、私たちは真の本質を現わしていません。私たちは経験を経ているところです。そして創造界において他の全ての人々とは異なった経験をすることによって、私たちは個別性を持ち、私は他の誰とも異なると言うことができるのです。二元性の諸世界において異なった経験を経ることによって、私たちは個別性に到達するのです。

Q：それはつまり、もしスピリットが降りてきて、前に進まなければ、それはスピリットであることを認識するのでしょうか？

K：私たちはまず現在のパーソナリティーの自己実現を達成する必要があります。そしてその自己実現の後、現在のパーソナリティーは存在の諸世界に入ります…実存の諸世界つまり下の3つのヘブンを後にして。それは他のヘブンに入り、それらは存在の4つのヘブンです。そして**自己実現したそのスパークは魂のセルフエピグノシスと同化します。そして直ちに即座に魂のセルフエピグノシスは自己実現したセルフエピグノシスとなり、その時初めて魂はそれ自身を他の「モナドセルフである魂のセルフエピグノシス」と切り離すことができるのです。**そして勿論、魂が2番目の磔を通過してテオーシス（＊神との再合一）に向かい、そして3番目の磔を通過したら、スピリットセルフのなかに同化し、スピリットセルフの自己実現となるのです。ですから現在のパーソナリティーの自己実現、魂のセルフエピグノシスの自己実現、スピリットセルフの自己実現があります。

Page4

 Q：もし誰も実存の諸世界を去っていないなら、なぜこのようなステップを説明できるのですか？なぜなら、あなたはいつも自己実現した人は誰でも他の人々を助けるために下に留まると言っているからです。

K：生徒には異なったステージあるいはレベルがあります。あるレベルにいる人達は同調を通じてそれらのリアリティーに気づきます。言い換えれば、それはあなたの内なるセルフから来るか、または上との同調を通じたリアリティーから来ます。つまり、創造界に下降した自己実現したスピリットセルフ、つまりドミニオンとして様々なアークエンジェルを意味する様々なLogisとの同調を通じて。

Q：私たちと交流するスピリットは人間のイデアを通過したスピリットですか？

K：そうです、彼らは自己実現しており、彼らの目的は下の諸世界のなかで助けることです。

Q：福音書のヨハネについて説明してくれますか？

K：**福音書を書いたヨハネは実際アークエンジェルです。しかし、聖霊的イデアを通じたアークエンジェルではありません。一回だけの転生におけるロゴス的下降によるものです。そして彼の下降の目的は地球上でイエスキリスト・ロゴスの現れに付きそうためでした。**同じことが洗礼者のヨハネにも言えますが、彼は2回転生しています。

　*それらの現れはロゴス的下降を通じてであったが、しかし彼らは転生のサイクルには入らなかったのです。彼らは何であれ現れの本質と共にやってきたのです。*

　何であなた方に話されたこと、または未来において話されることは全て経験的知識であるか、または前に述べたように同調を通じたものです。エレブナは処女マリアの活動について知っていますが、それは考察すべき何かではありません。

Q：私たちは何かを十分なバックグランドなしに、または十分な理解なしに受け取ることはできないのですか？

K：もし処女マリアの活動がキリストの上昇の後に知られるべきであったなら、私たちはそれを知ったことでしょう。同じように黙示録の意味はそのうちに明らかになるでしょう。

Q：はい、しかし黙示録と旧約聖書は復讐する神を示していないでしょうか？

K：イエスキリストは破壊するためではなく、加えるために来たのです。旧約聖書は新約聖書の基盤です。

　しかしまた、もし何かが書かれなかったら、それはそれが生じなかったということを意味しません。時には、何も知らない人の内側に何かが現れるということがあり得ます。なぜなら、何であれ過去に起きたこと、言われたこと、書かれたことは汎宇宙的潜在意識の記憶に記録されているからです。それは多くの転生の後に、あるいは多くの世紀を経た後に他の人間によって、その出来事が起きた通りに現わされるでしょう。

　あなたはイエスキリスト・ロゴスがその特定の地域に生まれ、現れたのは偶然だと思いますか？答えはノーです。それについてはレッスンのなかで述べました。それは三角形の中心でした。三角形の1つの頂点はエジプト、もう一つがギリシャ、そしてもう一つがインド・メソポタミアの地域です。それがいわば霊的世界、霊的知識の三角形でした。その中心はイエスキリストが生まれた場所です。それゆえ彼は、私は何かを脇にのけるためではなく、加えるために来た、と述べたのです。

　モーゼの活動；私が活動(movement)と言う時、体験は全て象徴的です。全ての活動、動きは自己実現のステートにまでの上昇を意味します。彼は成長の異なったステーションを通過しました。ステーションはまた様々のセンター全てをマスターすることを意味します。そして彼が最終的ステージに到達した時、彼は結婚するところでした。つまり最後のセンターをマスターしようとしていたのです。**彼は実際、無知の段階から自己実現のレベルまでの現在のパーソナリティーの動きを示したのです。それ故に彼は最後のセンター、聖なるセンターを意味するSepforaと結婚すること選んだのです。それは頭のセンターであり、実際には頭の上にあります。その時初めて彼は物質化、非物質化を行うことができたのです。パ**ワーに対する王との試合において、彼の杖は蛇になり、王が生み出した2匹の小さな蛇を食べたのです。彼はエレメントをマスターすることにおいて、より優れていたことを示したのです。

Page5

 Ｑ：あなたはまたアークエンジェルは微細なスパークだと言いましたか？

Ｋ：はい、それは聖霊的イデアを通過したスピリットセルフからの微細なスパークです。適切なオーダーを通じて現わされるアークエンジェルです。

　勿論、私たちもアークエンジェルですが、私たちはロゴス的アークエンジェルであり、私たちはプログラムされたセルフエピグノシスではありません。私たちには自由意志があり、現在のパーソナリティーの自己実現に到達すると、アークエンジェル的ヒポスタシス（状態）を現します。その意味は他のアークエンジェルのオーダーが行い、奉仕していることは何でも、自己実現した現在のパーソナリティーは行うことができるということです。それゆえに、人間、自己実現した現在のパーソナリティーはアークエンジェルのオーダーと協力することができるのです…勿論自己実現に到達した後ですが。

　Ｑ：私たちと共にいるアークエンジェル達と外で私たちを守っているアークエンジェルの違いは何ですか？

Ｋ：現在のパーソナリティーに付き添っている5つのアークエンジェルはオーダーからのものではありません。それらのアークエンジェルは人間の最初の転生の時からずっとその現在のパーソナリティーに付き添っています。彼らの仕事は異なった仕事です；彼らのセルフエピグノシスはオーダーのプログラムされたセルフエピグノシスとは異なってプログラムされています。オーダーは創造し、維持しますが、一方他のアークエンジェルたちは現在のパーソナリティーが最終的にオーダーとつながるのを助けることです。何であれ彼らが現在のパーソナリティーに提供するもの、それは何であれ彼らがオーダーとして意味するものです。ミカエルは火のエレメントを示していますが、それは火のエレメントからのものであり、オーダーからではありません。オーダーは肉体を扱いますが、しかし現在のパーソナリティーに付きそう個としてのミカエルは、思考・行動の仕方としての現在のパーソナリティーについて働きます。

　その仕事は現在のパーソナリティーを助け、様々なサイクルによって提供されるものを現在のパーソナリティーがより良く利用できるように助けることです。つまり、このアークエンジェル達の助けは現在のパーソナリティーがその気づきを高める助けとなるのです。

これが4つのアークエンジェルたち、そして5番目のアークエンジェル、守護大天使が提供していることです。彼らは現在のパーソナリティーを助けて、時には起こりうる否定的な体験を避けられるようにしています。

Q：それは守護大天使は私たちに何かが起きないように助けてくれるということは、原因結果の法則とつながっているのですか？

K：そうです、私達の中にあり罪悪感として現れているLifeのスパークと共に。守護大天使は私達の中でLifeのスパークと協同で働いています。他の4つのアークエンジェルは現在のパーソナリティーがサイクルからの助けに対して適切なアプローチを取り、その結果より高い気づきを現わすことができるように助けています。言い換えれば、Lifeそれ自体をもっともっと現わすように。

　ウリエルは現在のパーソナリティーと直接的なコンタクトを取る最後のアークエンジェルです。しかしウリエルは現在のパーソナリティーがもっともっとワークにアプローチできるように働いています。ウリエルはまた現在のパーソナリティーが求めている人間のイデアフォームを意味しています。それは自己実現のフォームです。

Q：現在のパーソナリティーと本質の違いを説明してくれますか？

K：現在のパーソナリティーとして私たちはその真の本質、Lifeの最内奥の本質を現わすことができません。私たちは現在のパーソナリティーの潜在的可能性の大きなサイクルが提供する何らかのレベルを現わすことができます。そしてそのレベルは勿論、真の本質、私達のアークエンジェル的な状態です。アークエンジェルの真のワークは実存の諸世界にあります。なぜなら、何かに実際に触れることのできる具体的な世界は、現れのこの世界（＊今の世界）だけだからです。

EREVNA/PYR/06/KE03/M10